

写真家

Told by KYU FURUMI

古見きゆうが語る



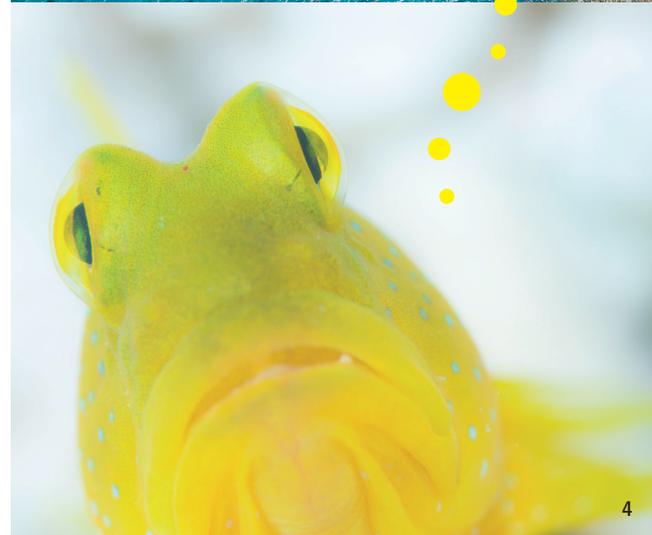
Shayama

DIVING STORY

憧れの海 八重山諸島

「魚を見るなら石垣島だ!」そんな憧れの念を抱き、予備知識もなにもなく東京を飛び出し、島に降り立ったのが、もう30年前。それ以来、何度も何度も八重山の島々を訪れ、海に潜り、自然に触れ、文化を体感しながら撮影してきた。気づけば世界中でも、もっとも潜り込んでいる海になっていた。移ろう時のなか、たくさんの仲間たちと見続けてきた八重山の海。この海の「あたたかさ」が僕をダイバーとして、写真家として育ててくれた心の海。たくさんの思い出と共に紹介したい。

1. 八重山の海はエントリーするのがうれしくなってしまうほど美しい
2. 山盛りのサンゴとカクレクマノミの共演
3. ドローンで眺める八重山の洋上は、宇宙から見た地球のよう
4. 竹富南エリアのギンガハゼは、指で触れるほど近寄れることも



マンタに出合った日

Symbol

はじめて石垣島の海を潜った時の興奮を、今も鮮明に覚えている。海の色がラムネのようなソーダのような、爽やかな明るいブルー。どこまでも見えるんじゃないかと真剣に思った。あたたかい海の水が体に絡みつくような感覚と、灼熱の太陽を跳ね返す真っ白の砂地。所々にある根には、小さな魚たちがコレでもかと隠れている。最高……。最高だよ、石垣島。毎日朝から夕方まで嬉々として潜っていた。

そろそろ島の雰囲気にも慣れて来たある日、この日は何やらマンタを見に行ってみるとのこと。マンタか……。なんとなく興味はあるけど、やっぱり小さい魚が好きだぜ。と、鼻息ふんふんしながら、『マンタスクランブル』でも下を向いてイシガキカエルウオや、アオギハゼ、ツバメタナバタウオなんかを眺める。やっぱり最高だよ石垣島……。なんて幸せを嘔み締めていた。かわいくて、ちょっと可笑しな魚は僕の大好物。当時はカメラも持っていなかったので、時間を忘れてひたすら魚たちを目に焼き付けていた。

その時、頭上にうっすらと感じていた太陽の温もりが、すーっと冷めるのを感じる。曇ってきちゃったのか……。？見上げると、僕の真上で巨大なマンタが旋回していた。これまで海の中で、こんなにデカイ生き物を見たことがない。呼吸をするのも忘れ、口を半開きにしたまま、マンタの姿を、ただただ眺めた数分間。自分の吐くエアーの横を悠々と泳ぎさるマンタの姿が、美しすぎた。

豪快なんだけど滑らかで、めちやめちやデカいのに怖くない。マンタは八重山の海の象徴的な生き物。マンタがずっとここにいるということは、この海が豊かで健全であることの証明なんですね



せきせいしょうこ
石西礁湖に包まれる

Coral:reef

1. 『北部エリア』のサンゴは雑然と茂り、他所とはまた一味違った無垢の美しさがある
2. ハマクマノミもこの『米原エリア』のサンゴの景色を「キレイだなあ」と眺めているに違いない
3. 石垣島の『崎枝』などには、スイムスルーできる大きな洞窟もある。光芒が美しい

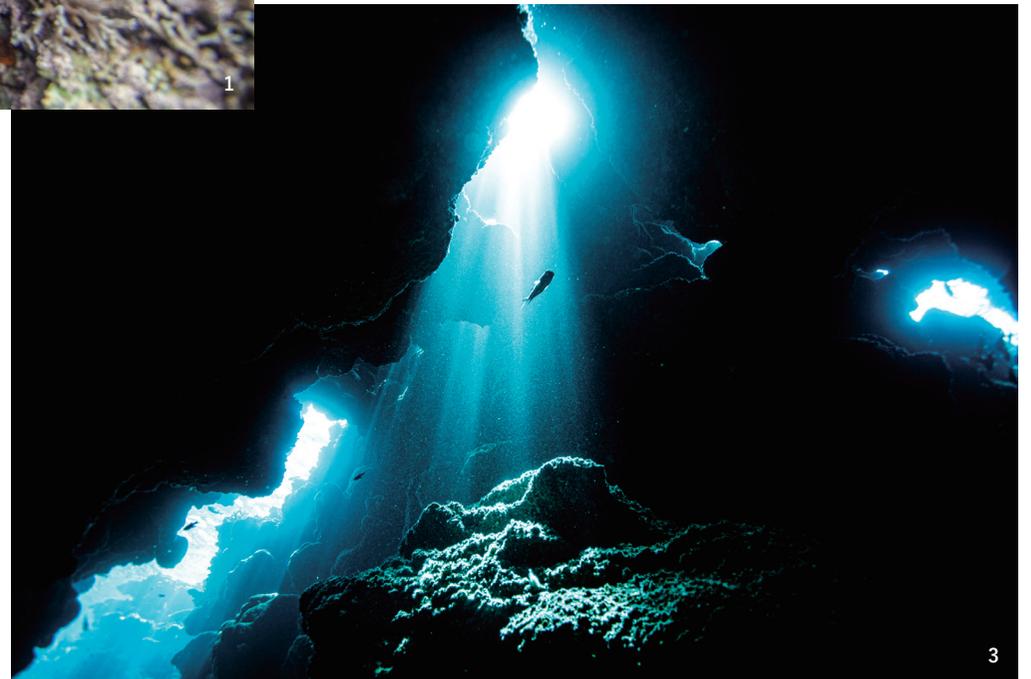


石西礁湖は、石垣島から西表島の間広がる日本最大級のサンゴ礁。およその面積で400 km²以上にもなるという。400 km²以上と言われて「広そうだなあ」とは思うものの、そのスケール感は全く想像できない。ということで調べてみたら、東京ドームにして8,500個分。山手線の内側の約6倍！ なんだか余計に訳が分からなくなりそうだ……。

石垣島周辺の名蔵湾や崎枝や北部エリア。竹富島、小浜、黒島などなど、八重山の島々は、基本的にどこを潜っても美しいサンゴの風景が広がる。サンゴは光合成

をし酸素を排出するため、海を浄化しキレイにする。そして、台風などの高波も防ぐ消波装置の役割も担うだけでなく、サンゴに依存するたくさんの生き物を育む。我々の生活にも大きな影響を及ぼす、まさに南の海の“ゆりかご”のような存在。場所によっては起伏のついた溪谷のようであり、広大な草原のようであったりする。

そんな八重山のサンゴを眺めていると心が和む。高揚感というよりも安心感。いつも、やさしく包み込んでくれる。そんなサンゴの存在に感謝したい。



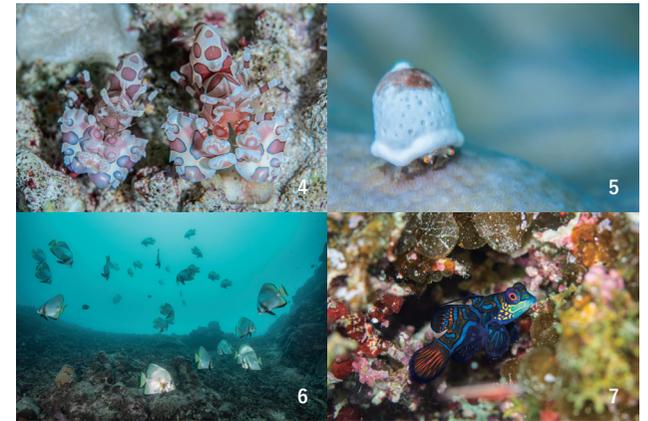
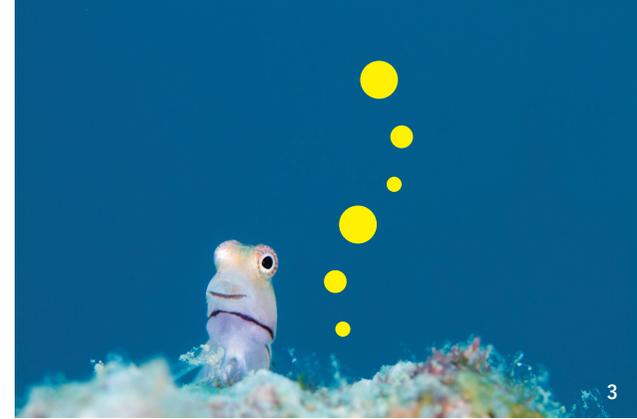
Harmony

生き物たちの声をきく

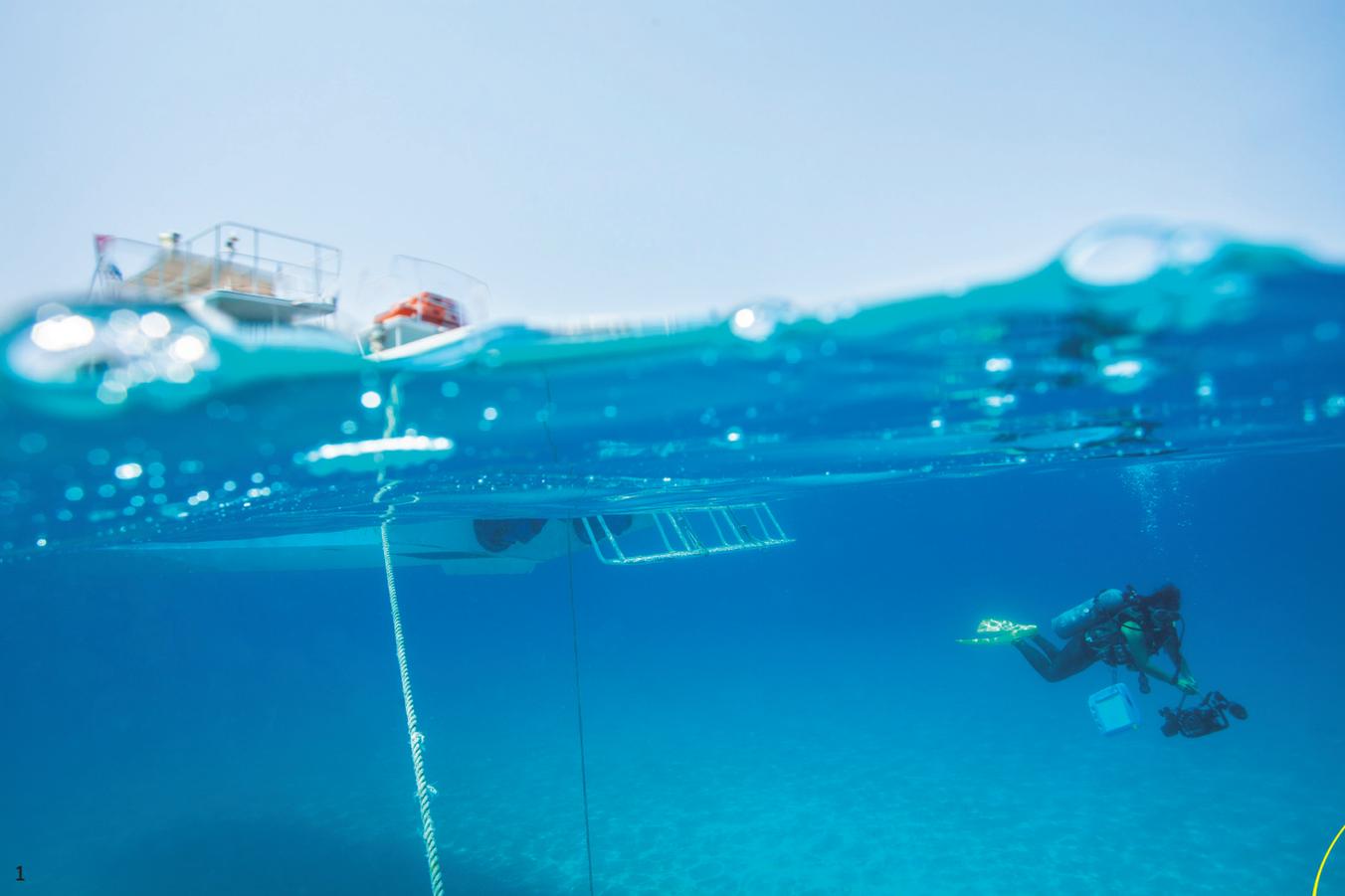
国内でも圧倒的な魚の量を誇るのが八重山諸島。年間を通して温暖で、サンゴをはじめ岩礁帯、砂地、藻場、マングローブ林床など、あらゆる海中環境が揃う。さらには世界最大級の暖流 黒潮が、インドネシアやフィリピンなど「コーラル・トライアングル※」のエネルギーを八重山まで届けてくれる。大きな石垣島、西表島に挟まれるように島が入り組み、黒潮が沿岸を洗う。生き物たちにとっても、抜群の好条件が揃っているという訳だ。

個人的には石垣島の名蔵湾や北部エリアの浅瀬のサンゴに、デバスズメダイたちが雲のように、ふわっと群れている景色が好き。頭の中を空っぽにして、ずっと眺めていられる感覚が心地よい。あまり詳しくはないが瞑想に近いような状態なのかな？ 潜り終わった後もふんわり心地よくて、夜もぐっすり眠れるような気がする。とは言え、マクロレンズでガッツリと、小さな生き物と向き合う時間も、また最高なんだよね。忙しいけど。瞑想と喧騒が混在する、ほんと罪な海なんです。笑

※コーラル・トライアングル = 大きくフィリピン、インドネシア、バブアニューギニアを結び、赤道直下南太平洋の三角地帯は、世界で最も生物多様性が高く「海の熱帯雨林」とも称される海域



1. 春から夏にかけてはキンモドキの最盛期。金色に包まれる感覚は心地よい
2. 『大崎エリア』のちょっと深場に住んでいるナカモイトイワケハゼ。いつ見てもかわいい
3. どこにいてもフォトジェニックなイシガキカエルウオ
4. ヒトデ食として知られる美しいフリソデエビ
5. チャツボボヤを被るオガサワラカムリ
6. 名蔵湾に群れるアカククリ
7. 内湾のポイントではニシキテグリもちらほら出現する
8. ヘラジカハナヤサイサンゴを覗くと、ダンゴオコゼがいた
9. 潮が軽く流れるポイントは、チンアナゴの撮影チャンスが多くなる



Healing

竹富島

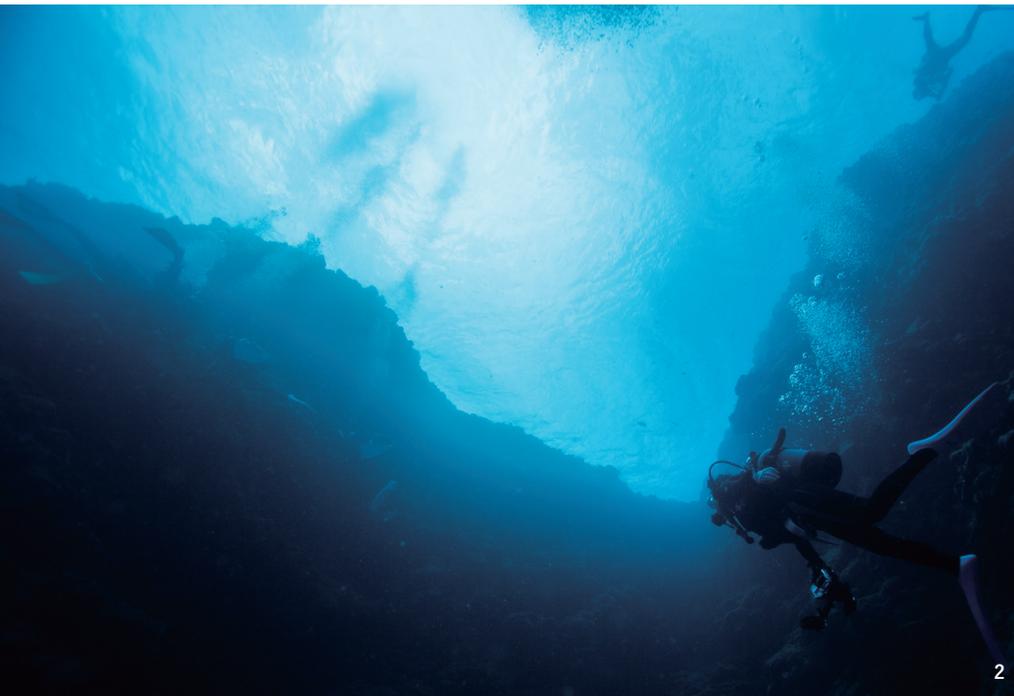


1. 美しいブルーの境界を眺める幸せ
2. ダイビングポイントとしては、かなり稀有な存在の『海底温泉』
3. 小さなインギンチャクに、小さなクマノミたちがてんこ盛りだった
4. カスミチョウチョウウオは、THE 南の海の生物といった感じ
5. 冬から春にかけて『トカギンの根』には、イソマグロが大挙する
6. ヤシヤハゼを見かけると嬉しくなってしまう

石垣島のすぐお隣にあるのが竹富島。ダイビング船に乗って15～20分ほどで着いてしまうので移動も楽チン。特に『竹富南』と呼ばれるエリアは、素晴らしいダイビングポイントが軒を連ねていて、いつもたくさんのダイビングボートで賑わっている。このエリアの砂地には共生ハゼの仲間が多くいて、特に明るいイエローのギンガハゼは目を惹く。しかも、このギンガハゼたちは妙に人慣れしていて、最短撮影距離までやすやすと接近できてしまう。大体この手の共生ハゼは、非常に

臆病なものが多いはずなのに、この警戒心の薄さは若干心配でもある。どこまで近づけるのか、ぜひ一度チャレンジしてもらいたい。

『海底温泉』もダイビングポイントとしては非常に面白い環境だ。僕たちが手をかざしても気持ちいいし、魚たちが湯治をしにふらふらと温泉にやってくる姿なんかも見られる。「お前たちも色々大変なんだね。いつもお疲れさま」なんて、労いの声をかけてあげたくなるのは、僕だけではないはず。



Relax

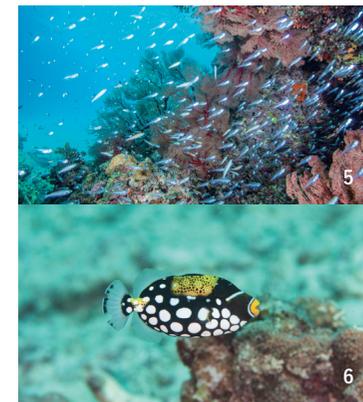
新城島 黒島



石垣島を出港してしばらく南西へ走ると、背の低い島が見えてくる。この島が黒島。上空から見るとハート型をしているようなのだが、まだ実際に見たことはない。過去には何度か上陸して滞在しながら潜ったものだが、島の人口よりも飼われている牛の方が断然に多いという、とてつもなくのんびりとリラックスできる島だった。船でこの島に差し掛かるときの、海の色の変化が最高に美しいと思っている。島へと近づくとつれ、濃いコバルトブルーを淡雪で薄めたかのような、やさしく美しいブルーへと変化する。この景色は何度見て感動してしまう。美しすぎてちょっと泣けてくるくらい。

島周辺にはパウダーサンドが広がるダイビングポイント『セラピー』や、ウミガメの個体数も多く、冬場のマンタポイントでもある、ダイナミックな地形ポイント『V字』。そしてお隣の新城島の人気ポイント『竜宮の根』も、これまたどこまでも美しいパッチリーフ。枯山水のような砂紋が描かれる砂地にポツンと立つメインの根。そこには真っ赤なリュウキュウイソバナが繁り、スカシテンジクダイが銀色の吹雪の如く踊る。まさに絵に描いたような竜宮城の風景じゃないか。

素晴らしきネーミングのダイビングポイント。ここも時間を忘れて潜ってしまうんだよね。



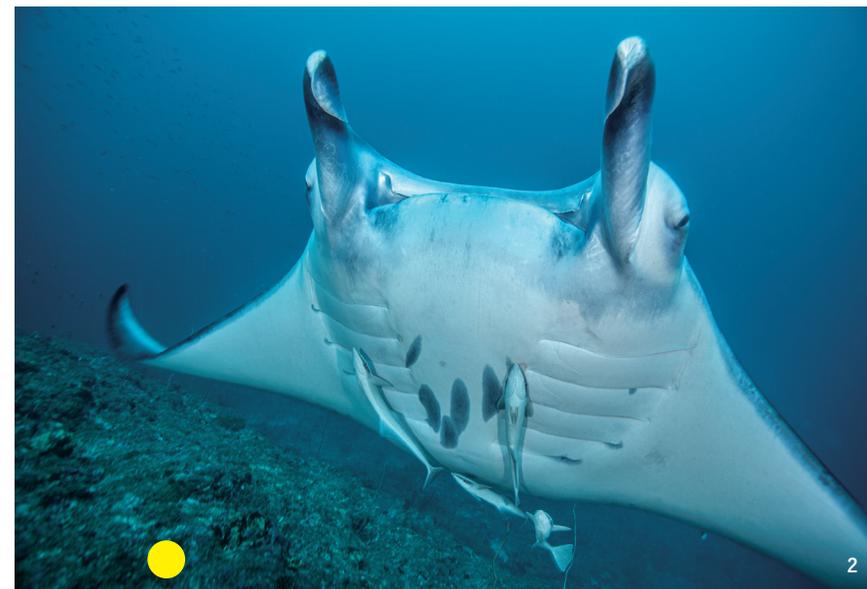
1. こんな海を見ちゃったら飛び込みたくなりますよね
2. 黒島の名物地形ポイント「V字」。ダイナミックなドロップオフは壮観です
3. 上空から見た新城島のリーフ。美しすぎる
4. みんな大好きハナヒゲウツボ
5. 『竜宮の根』のリュウキュウイソバナは必見
6. 水玉模様がかわいいモンガラカワハギの幼魚



1. 『ヨナラ水道』をドリフトで流して見えたマンタと白砂の絶景
2. あらゆる大物が交錯する『野原曾根』。マンタ急接近
3. 『ヨナラ水道』の浅場のサンゴも美しい。テングカワハギの幼魚がいっぱい
4. 丸太の如きバラクーダの大群
5. ドロップオフにキンメドモドモの雲がかかる



昔から石垣島の『マンタスクランブル』と肩を並べるほど、マンタポイントとして高い人気を博していたのが、小浜島と西表島のあいだを流れる『ヨナラ水道』。リーフトップには枝状サンゴが群生していて、その規模は一見の価値あり。一時はマンタの出現率も下降気味だったようだが、この10年ほどの間で、またマンタが大挙するエリアが見つかり、一部のダイバーたちを熱狂させ



Exciting

の ぼ る ぞ ね

小 浜 島 ・ ヨ ナ ラ 水 道 ・ 野 原 曾 根

ている。白砂のPATCHリーフの間を、マンタの群れが行進する姿は壮観であり、彼らの舞台を観劇しているような気分になる。このシチュエーションは、他所の海ではお目にかかることがない、完璧なフォトジェニックだと思う。

また近年人気が高まっているのが、ヨナラ水道の北側に位置する隠れ根『野原曾根』。根のトップで約-30mほどと、ダイビン

グポイントとしては、かなり深い。しかしながら潮の当たりが非常に良く、マンタやギンガメアジやバラクーダの大きな群れ、ロウニンアジ、メジロザメなどなど、八重山で見られる、あらゆる大物が一堂に介することがあるという。ヨナラ水道のマンタポイントや、野原曾根は基本的にドリフトダイビングとなる。細かなルールなどもあるので、利用するショップで改めて確認が必要だ。

Dynamic

西表島・ 鳩間島

1. リュウキュウキッカサンゴの大群生。西表のスケールの大きさを感ずる
2. 鳩間島リーフ内のサンゴは現代アートのような美しさ



八重山諸島最大の面積を誇る西表島。島の大半が原生林のジャングルで覆われている、濃い緑が美しい島だ。八重山最高峰こみだけの古見岳が存在し、雨雲が近く、いつも島のどこかで雨が降る。その山の緑の恩恵が、雨から川を伝い、海へと流れ出るため沿岸も陸上の原生林に劣らずの、サンゴの密林

が広がる。西表北部の上原集落の沖には、過去にテレビドラマの舞台となった鳩間島もある。周辺は大きなリーフに囲われていて、穏やかでとても潜りやすい。巨大なリュウキュウキッカサンゴの群生や、テーブル状サンゴの群生など、のんびりとサンゴの海を満喫するなら鳩間島がオススメだ。

波照間の語源となった言葉が「果てのうるま」だという。うるまは沖縄の方言でサンゴのこと。「最果てのサンゴ」の島だ。石垣島をベースとして潜るポイントとしては、最も遠い島となり、一日かけての遠征ダイビングとなるだろう。海況・風などのコンディションに大きく左右されるので、簡単には行くことが叶わない。でも、もしタイミング合って訪れることができるようになったら、そこには極上の海が待っていて、至極の体験となる

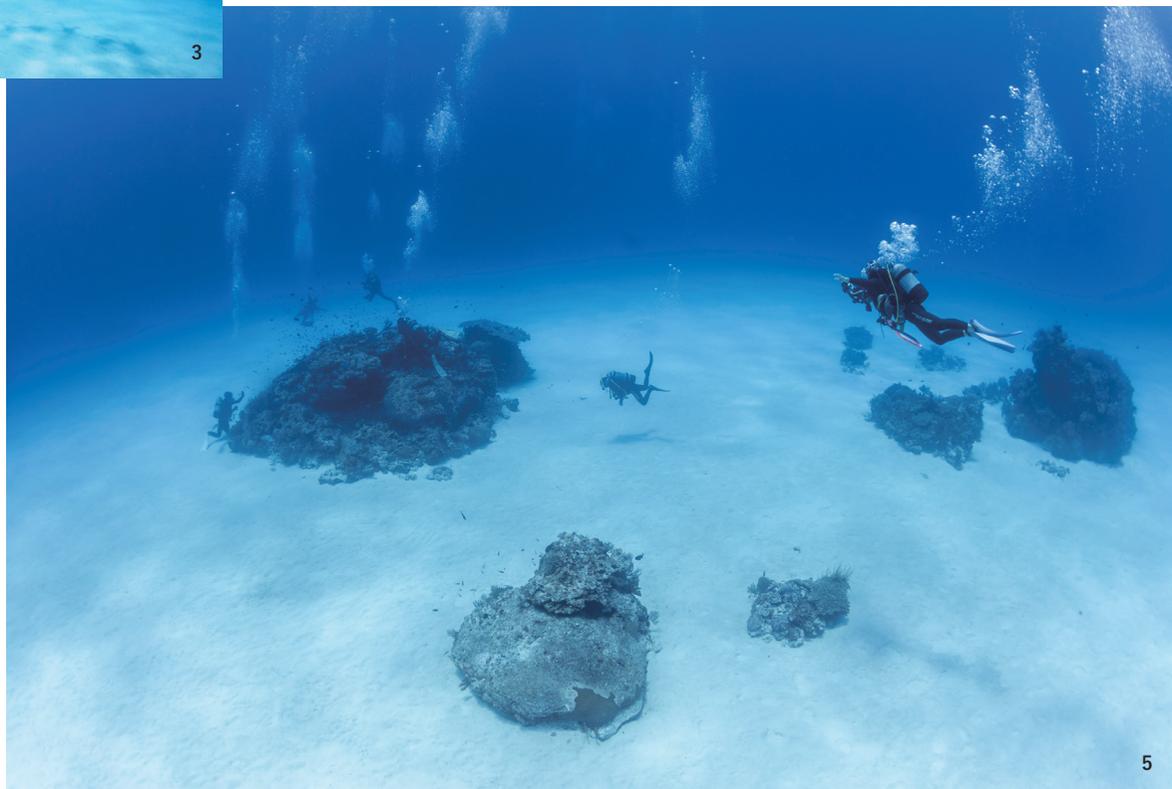
ことは間違いない。青の色がまたもう一段階違うんだ。僕も世界中の素晴らしい海を、たくさん潜ってきてはいるけど、この波照間の海の色はスペシャルワンなんじゃないかと思う。

以前、波照間を潜って「人生観が変わった!」というダイバーとも出会ったことがある。「そんな大袈裟な。笑」とも思ったが、やっぱり、まんざらでもないかもしれない。



1. ハタタテハゼはどこにいても、いつもかわいい
2. 港のテトラに座って眺めた景色
3. 大勢で潜るのも楽しいものです
4. パッチリーフには魚が集中する
5. 波照間に来ると無性に泳ぎたくなるのはどうしてだろう?

波照間島





八重山での思い出を…

ダイバーである僕たちは、必然的に旅の最大の目的がダイビングとなる。しかし、可能であれば島々の風景や、文化なども体感してもらいたい。石垣島屈指の景勝地と呼ばれる「川平湾」や最北端「平久保崎灯台」、ラムサール条約にも登録される湿地帯「名蔵アンパル」など見どころは山ほどある。レンタカーを借り、一日のんびり時間をかけて巡るのもよいだろう。離島ターミナルを拠点にして、各島へのアクセスも非常によい。たまには、ダイビング以外のマリンスポーツにチャレンジしてみたって良いじゃないか。最近はロングフィンも履いて

のフリーダイビングも人気が出ているらしい。映えスポットの「幻の島」トリップだったり、スノーケリングでしか行けないような、秘密のサンゴ礁なんかもあるかもしれない。そこにマンタが来る可能性だってゼロではないはず。

島での過ごし方には正解も間違いもない。家族や気の合う友人と、もちろん一人でゆっくり過ごしても良い。心の向くままに島の空気を感受し、美しい光景に感動し、美味しいご飯に舌鼓を打つ。

八重山での体験が、皆んなにとっての最高の思い出となりますように。

古見きゅう KYU FURUMI

1978年生 東京都出身。本州最南端の和歌山県串本町にて、ダイビングガイドとして活動したのち写真家として独立。独特な視点から海の美しい風景だけでなく、海の生き物たちの暮らしや繋がり、海の環境問題など、水中のありのままのドキュメンタリーを作品とし様々な媒体で発表する。著書に「Longing」(hon-ami)、「海の音をきく」(小学館)など多数。2016年には撮影プロダクション And Nine 株式会社を設立。近年は本格的な8K水中映像も撮影し編集まで一括して行い、大型商業施設への作品提供や企業PVの撮影・制作、テレビ番組などへの映像提供も多数手がける。



1. 小浜島の一本道。八重山には素敵な小道がいっぱい
2. 川平湾はもはや説明不要のロケーションですね
3. 名蔵湾でマングローブを感じる
4. 何回だって食べたくなる三昧肉そば
5. 土産物屋などが軒を連ねるアーケード「ユウグレナモール」(石垣島)
6. 伝統的な沖縄料理も良いし、近年はお洒落な飲食店も増えている

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|------------|------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|---------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 気温 | 19℃ | 19℃ | 21℃ | 23℃ | 26℃ | 28℃ | 30℃ | 30℃ | 28℃ | 26℃ | 24℃ | 24℃ |
| 水温 | 23℃ | 22℃ | 22℃ | 24℃ | 26℃ | 27℃ | 30℃ | 32℃ | 32℃ | 30℃ | 28℃ | 25℃ |
| | マンタ(川平やヨナラ水道方面) | | | | | | | | | | | |
| | マンタ(黒島・新城島周辺) | | | | | | | | | | | |
| 石垣島で見られる生物 | | | | | | | サンゴの産卵 | | | | | |
| | | | | | | | 魚の産卵 | | | | | |
| | | | | | | | 魚の幼魚 | | | | | |
| | コブシメ(その年の水温により変動あり) | | | | | | | | | | | |
| | イソマグロ・ブラックフィンバラクーダ(屋良部エリアなど) | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | キンメドキ・スカシテンジクダイいっぱい | | | | | |
| | | | | | | | キビナゴ | | | | | |
| | | | | | | | ウミガメ | | | | | |
| | | | | | | | ウミガメ交尾 | | | | | |